

<祈りのすすめ>

「主はこう言われる。『さまざまな道に立って、眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ、どれが、幸いに至る道か、と。その道を歩み、魂に安らぎを得よ。』しかし、彼らは言った。『そこを歩むことをしない』と。・・・『この地よ、聞け。見よ、わたしはこの民に災いをもたらす。それは彼らのたくらみが結んだ実である。彼らがわたしの言葉に耳を傾けず、わたしの教えを拒んだからだ。』」

(エレミヤ書6章16節、19節)

聖書には神の厳しい審判が語られています。旧約だけでなく新約聖書にもそうです。人を脅して信仰へと誘っているように思われるから、審判について語るのは控えて、もっと喜びや希望について語る方がよいのでは、という声もあります。しかし、それでは聖書の言葉を誠実に受けとめるとは言えません。神の正しい審判こそ、権力犯罪などの無力な被害者にとって希望を支える土台です。神の審判は、罪人であるわたしたちの鈍くされた良心に問いかけ、罪を自覚させ、罪の赦しを得させる悔い改めへと導く恵みです。

わたしたちは過去をふりかえるとき、「他に選択肢はなかった、仕方がなかった」などと弁解がましく自他を納得させようとしやすいものです。しかし神は、「さまざまな道に立って、眺めよ」と、はたして本当にそうだったのか、ほかに良い可能性はなかったのか、と問いかけておられます。

当時のユダの人々にとっては、エジプトの奴隷からの解放という救いの恵みと、それを基盤とする律法の道が与えられていました。それも強制ではなく、自由の中で選び取る仕方でした。解放の神ヤハウェのみを神として礼拝し、古代エジプトのような抑圧と差別ではなく、正義と公正、真実と愛が実現される社会を形成するためです。それこそが幸いに

<祈り> 主なる神よ、あなたはすべてを正しく裁く方です。わたしたちは過去に誠実に向き合い、自分たちの罪を悔い改めます。感染症と敵対の危機の中で、あなたのみを神として崇め、隣人を愛する道を歩む者とならせてください。

(古賀清敬、こが・きよたか；大会靖国神社問題特別委員、北海道中会教師)

至り、魂に安らぎを得る道として、ユダの人々には示されていたのに選ばなかったのです。

靖国問題は、自分たちの過去をどう捉えるのかという問題でもあります。他の地域や国の人々を武力で制圧して、植民地支配や利権獲得を誇り高い成果として追究してきた過去です。欧米列強の包囲網である戦争の道しかなかったというなら、それはそこに至る歴史の推移を踏まえずに、当時の政府の口実をいまだに鵜呑みにしている愚かさです。なお憂慮すべきは、過去の罪過を反省するのを「自虐史観」と蔑む人々が政権の中核にいるありさまです。幕末の内戦が生み出した靖国神社がさらに幾多の戦争を推進し、戦争を「偉業として顕彰」する施設であることが、率直な悔い改めを阻んできた大きな要因です。

現在の新型コロナ対策でも、日本では検査が抑制され感染の実態が把握されないままです。先発している国々や地域、都市の対応はさまざまで、それは選択肢が複数ある事実を示しています。とくに韓国やドイツの対策は高く評価されているにもかかわらず、日本政府は意固地なまで見做おうとはしません。過去に向き合おうとしない者は、現在をも偽っているのではないのでしょうか。わたしたちは神の問いかけにどう応えるのでしょうか。

新シリーズ『いま なぜ 大嘗祭か』を読みなおす（16）

川越弘（沖縄伝道所牧師）

Q13 キリスト者にとって象徴天皇制のどこが問題なのですか？

A 戦後民主的改革が「国体護持」を大前提にして行われたため、多くの問題を残してしまったのです。まず、今回の天皇代替わりで明らかになったように、天皇が神格化される危険性が常につきまっています。天皇が「天皇」と呼ばれ、「君が代」が歌われ、「日の丸」の旗が国旗として振られ続ける限り、天皇が神格化される危険性から抜け出すことはできないのではないのでしょうか。

また、「お国のために死んだ者」を祭る靖国神社に、「天皇」が参拝することを最高の榮譽と考える人々が少なくないこの国の現実において、そして「天皇」の問題をタブー視して相対的な問題として論じることのできない中で、さらに「元号」という制度で天皇によって自分達の時間を区切られることが法によって規定される状況の中で、キリスト者はその生活のすべてにわたって信仰を貫くことに困難を覚えるようになります。

そしてまた、「天皇」の存在が、人の仕事の価値評価をしたり（勲章）、「天皇」が各地を旅行するたびに障害者の外出が禁じられるなど人権が無視されたり'皇位継承問題が'わが国では男女差別の源泉となったり、わが国とその国民が近隣の他の国よりも優れた民族であることが強調されたりなどしています。

「象徴天皇制」は、天皇統治の昔と違って国民主権・民主主義の制度の下にありながら、なお現実には「神格化」の問題や、「差別」の問題の根源となっています。そしてそれをなかなか克服することのできない現状では、いま一度この制度を相対的な問題として、根本的に考え直すべきではないのでしょうか。

新 Q13-1 象徴天皇制のどこが問題ですか。

新 A13-1 日本国憲法第一条は「天皇は、…国民統合の象徴であり、…国民の総意に基づく」と定めています。この第一条は、實際上、天孫降臨の虚妄をまとう万世一系の宗教的皇室祭祀の天皇が統合する「天皇＝国民一体」を意味するのです。そこにあるのは、多様な国民や住民の信教・思想・表現の自由を薄める統合です。本来「国民統合」の主体は「国民」であり、主権者である国民の意志が天皇を根拠付けるものですが、国民の意思の総体を天皇が把握しているかのように、この国の支配者層が指導していることに問題があります。

新 Q13-2 「国民統合」のどこに問題がありますか。

新 A13-2 天皇の国事行為でない公的行為（憲法違反）は「内閣の責任において」なされるため、時の政府と基本的立場を異にすることはあり得ません。したがって「統合の象徴」としての天皇は、政府と国民との対立と亀裂を融和することになります。つまり政府と民衆との対立を「統合」して緩和するのです。前天皇明

仁はここに努力を傾注してきました。国民の平和と幸福を祈り、国民の苦しみに心を痛める姿を示して、政府と国民をつなぐ情の回路を切り開き、「天皇＝国民の心の一体化」を造り出したのです。天皇裕仁は、天皇の政治活動を禁止した象徴天皇の日本国憲法をも蹂躪して、日米安保の基礎づくりを行いました。天皇明仁は天皇裕仁の「心を心として」、「象徴としての務め」に全精力を注ぎました。「象徴としての務め」の解釈と内容を巡って、天皇明仁と安倍首相との間に齟齬（そご）があったことは事実としても、概（おおむ）ね「二人三脚」でやって来たのです。「明治」から1945年の敗戦までの75年余、大日本帝国は、天皇の名のもとにアジアの人びと数千万人を殺害し、沖縄に暴虐な支配を行ってきたのですが、日本国と天皇は未だに謝罪も真相究明も賠償も責任者の処罰もしていません。天皇明仁は「『謝罪なき謝罪』と呼ばれる慰霊の旅」によって「戦後を終わらせた」ように見せて、自衛隊の外国派兵の地ならしをしてきたと言えます。2016年3月の天皇夫妻の沖縄・与那国訪問もその一つです。

沖縄からの便り 渡辺信夫牧師から学んだこと

西浦昭英（沖縄伝道所会員）

3月27日、渡辺信夫牧師が天に召された。追悼の意味を込めて、渡辺牧師から学んだことを、ヤスクニ・天皇制の問題を中心に紹介したい。多少私事の内容を含むがご容赦願いたい。

1993年秋、勤務していた聖学院中高（男子）の年配の教員から、1943年11月の学徒出陣を記憶して開いていた労組主催の講演会の講師を捜して欲しいと頼まれた。当時、現上皇の即位式の違憲訴訟が東京地裁で始まっており、確か1000円で広く原告を募集していて、私も参加していた。その機関誌に、原告の渡辺牧師が、学徒出陣をした戦争体験を寄稿していたので、依頼しようと思った。

私は、当時カンバーランド長老教会の信徒で、教会内の読書会で「教会論入門」を読んでいた。その後、「綱要」「カルヴァンの教会論」を読み、渡辺牧師の名前は知っていた。手紙と電話でアポを取り、北鳥山の教会を訪れた。どこの馬の骨と思われたかもしれないが、お連れ合いの鈴女教師が、女子聖学院（同じ法人で別学）に勤務していたこともあってか、講師を承諾していただいた。

講演の題は、「学徒出陣50年の負債」となった。「自分は何が間違っていたのか。自分が生き残らせられた意味は何か。死んで行った人たちに対する生き残った者の責任は何か」という、誠実な内容であった。この講演は、翌年「戦争罪責を担って」（新教出版社）として出版された。

勤務校の修学旅行で沖縄に行くと渡辺牧師に伝えたら、「是非、ハンセン病療養所の愛楽園に行きなさい」と言われた。同時に、愛楽園の創設者の青木恵哉師（聖公会）の自叙伝「選ばれた島」の出版に協力したのが、渡辺牧師だと知らされた。早速取り寄せ、深い感動を持って読了した。修学旅行の下見後、同僚と別れ、愛楽園を訪れ入所者の話を聞き衝撃を受けた。以降、機会があるごとに他の療養所を訪れたが、事前に渡辺牧師から園内のキリスト者を紹介していただいた。

1998年に始まったハンセン病国賠訴訟に関わる中で、教会による患者への支援に功罪があった事を知った。明治・大正期の欧米の宣教師や協力した日本人キリスト者が、見捨てられた患者を救済した行為は賞賛に値するだろう。だが、戦前、貞明皇后（大正天皇の妻）の巨額の下賜金で設立されたライ予防協会が、医学的根拠のない偏見で恐怖心を煽り、療養所に連行し、終生隔離を進めたことに、教会も加担したことは知らされていない。戦前の責任の自覚のないままに、現在も皇族は、療養所の「可哀そうな」入所者を訪ね、入所者は皇族の訪問に感動させ

られている。こうした問題を批判する能力が、教会にも欠けているという問題点を、渡辺牧師から教えられた。2024年に発行される新紙幣の1万円札に、渋沢栄一の肖像画が使われる。渋沢は、ライ予防協会設立者であった。ハンセン病政策を通して、渋沢の批判が間もなく始まると思われる。

私は、1999年、都内への転居を機会に、東京告白教会に出席を始めた。渡辺牧師は、他教派からの講演の依頼が多い。すべての原稿を完全原稿で用意するので、いただいた原稿を増す刷りし、同行できる時は持参し1冊100円で販売した。安価なためか、かなりの売り上げになり、全て主催者に献金した。

客員という身分の居心地が良かったのか、転会する機会がないまま、約20年、東京告白教会の礼拝に出席させていただいた。昨年3月退職し、長年考えていた沖縄移住を実行した。修学旅行で平和ガイドの方々にお世話になり、退職後はボランティアとしてかかわりたいと思っていたところが、名護市辺野古の新基地建設が強行され、反対運動が続けられているので、しばらくは参加することにした。そのため、住まいを名護市内に捜した。

6月に沖縄伝道所に転会した。学徒出陣を経て、海軍士官として沖縄に来た経験がある渡辺牧師は、沖縄への強い思いを持っておられたので、私の移住を心から喜んでくださった。愛楽園は、同じ名護市内にあり、機会を見つけては通っている。不思議な導きと言わざるを得ない。

最後に、渡辺牧師の葬儀での、澤正幸牧師の説教を引用する。

「渡辺先生に初めて沖縄に連れて行っていただいた時、何人かの青年と一緒に首里から摩文仁の丘まで、南部戦跡を先生は歩かれました。艦砲射撃を避けながら、逃げ延びた沖縄の人々のことを追体験するためでした。そして、摩文仁の丘に着き、健児の塔に辿りついて休んでいた時、先生はハラハラと涙を流されました。その塔には、沖縄師範学校の生徒で、鉄血勤皇隊として死んでいった生徒たちの名前が刻まれました。先生はあとで、ご自分が泣かれた理由を私たちに話されました。自分より若い人たちを死なせてしまったことを想って泣いたのだと」

巨大な天皇制というシステムに飲み込まれ、抗う事も出来ずに軍人になった人生を悔い、もう二度と同じ歴史を繰り返させてはならないという、信仰に裏打ちされた誠実な思いを、次の世代が継承しなくてはならないと思わされた。

＜ヤスクニ関連ニュース＞

*コメントは報告者：古賀清敬

○「どさくさ紛れ政府の仕掛けに監視を/政界地獄耳」

★10日朝、自民党本部で唯一の会合の自民党憲法改正推進本部は緊急事態対応の在り方について議論、より権限の強い法律への移行とその先の憲法改正を視野に議論された。背景には7日、首相・安倍晋三が「不十分となれば、新たな法制も当然視野に入れなければならない」とテレビで発言したからだ。また首相は「(この緊急事態対応で)警察の介入はない」としながらも「協力を要請する場合もある」とも。発言のベースには厚生行政と警察の関係がある。

★日本は1873年(明6)11月10日に設置され、1947年(昭22)まで続いた地方行政・警察・土木・衛生・国家神道などの国内行政を担う内務省があった。内務次官、警保局長、警視総監は「内務三役」と呼ばれ、警保局が警察組織の源流だ。警察行政は内務大臣が掌握し、警視総監・府県知事を監督するが、その実務にあたったのが警保局。一方、内務省にあった社会局・衛生局が厚生省の前身。1938年(昭13)、衛生局と社会局が厚生省として分離独立。改めて考えれば、新型コロナウイルス感染者を追跡調査などコントロールするためには警察、地方自治体、厚労、そして新たにネットを加えた一元化した新内務省のような組織が必要というわけだ。緊急事態を強調してどさくさに紛れてさまざまな仕掛けを政府は繰り出してくる。国会や野党が機能するかが問われる。(日刊スポーツ・コラムより抜粋；4, 11)

*安倍政権の後手のコロナ対策は人権に配慮しているからなのではない。より強い権限を政府に与えるべきだというすり替え論調には要注意。

○『「香港民主主義の父」ら民主派重鎮14人逮捕－感染拡大で抗議下火、圧力強める中国政府』

[広州＝角谷志保美]香港警察は18日、昨年激化した香港と中国政府に対する抗議運動に関

連して、無許可デモに参加した疑いで民主派の重鎮ら14人を逮捕したと発表した。逮捕者はさらに増える可能性があるという。新型コロナウイルスの感染拡大で抗議運動が下火になる中、両政府は民主派への圧力を強めている。逮捕されたのは、・・・「香港民主主義の父」と称される李柱銘・元民主党主席、昨年100万人規模のデモを主催した民主派団体の代表など、20～80歳代の男性12人、女性2人。・・・(読売；4, 18) *コロナの直前まで、民主化要求と政府の頑固な拒否とが飽和状態に達していた。コロナ騒動まで弾圧に利用する狡猾さ。

○「辺野古工事 当面中止へ」

沖縄防衛局は20日、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古への移設工事を当面中止すると発表した。現場の業者内で新型コロナウイルスへの感染が確認された後も政府は工事を継続する考えを示していた。防衛局によると、感染の広がりや、業者側から工事中断を求める声があることを踏まえたという。(朝日；4, 21)

○「安倍首相の真榊奉納に『失望と遺憾』韓国」

[ソウル時事]韓国外務省は21日、安倍晋三首相が靖国神社に祭具の真榊(まさかき)を奉納したことを受け「深い失望と遺憾」を表明する報道官談話を発表した。談話は「日本の指導者が歴史を正しく直視し、歴史への謙虚な省察と真の反省を行動で見せることで、韓日関係改善への意志を示してくれることを促す」と要求した。(時事；4, 21)

784号ヤスクニ通信 2020年5月10日

発行 日本キリスト教会

靖国神社問題特別委員会

発行人 古賀清敬

編集 小塩海平

発行 芳賀繁浩(日本キリスト教会大会事務所)

＜編集後記＞ 緊急事態宣言さ中の改憲推進。命より改憲の棄民政権/工事現場で感染者が出ても続行しようとした河野防衛相。命より基地の冷血政権/過去を直視し補償しない者たちは現在の住民にも補償をしようとせず、毎日自殺者が出ているのも見て見ぬふり。教会が神の正しい審判を告知する秋ではないだろうか。(K生)